

最終報告書

報告者氏名：小坂 征史 所属：宮崎県立赤江まつばら支援学校 記録日：平成26年 2月26日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年：高等学校 2年 16歳（女）
- ・ 障害名：①先天性心疾患【車いす使用】②光アレルギー・光覚過敏など③脊椎側弯症
- ・ 障害と困難の内容：
 - 視覚上の困難：遠くも近くも見えにくく、まぶしがる
 - 学習の空白（小1～中3）：漢字、アルファベットの読み書きが苦手
 - 疾患に起因する困難：学校で疲れ、自宅では横臥（安静）で過ごすことが多く、座位で読み書きする学習時間が確保しにくい

【活動目的】

- ・ 当初のねらい 教材等へのアクセスを可能にして学習意欲を高める
- ・ 実施期間 平成25年4月～平成26年2月
- ・ 実施者 小坂 征史（こさか まさふみ）
- ・ 実施者と対象児の関係 教科担任（英語）

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況：
 - 学習の空白に起因する、「知識不足、語彙不足・読字（漢字）困難」に対し、授業者はそれらの困難を解消する具体的支援方法を提供できてない
 - 英語は、「見たことがある、聞いたことがある」レベル。文法知識が少なく、読み書きは困難。話す、聞くは単語（1～2語）でのあいさつができるが程度。（「一問一答」的な語彙学習、英会話が好き）
 - 学校で体力を消耗するため、自宅では静養が中心の生活で学習時間が確保できない
- ・ 活動の具体的内容：
 - ①視覚上の困難を解決する手段として：iPadの機能、アクセシビリティを活用
 - ②読み書きの困難を減らす手段として：アプリ「DragonDictation」、「QuickVoice」を活用
 - ③時間を「作る」手段として：iPadの携帯性、アプリ「iBooks」、「Quizlet」を活用
- ・ 対象児（群）の事後の変化：

①を通じて

- 「明るさ」だけでなく、「ズーム機能」、「テキストを大きな文字で表示」、「色の反転」を組み合わせ使用、自分にとって見やすい環境をつくるようになった。これにより iPad を用いて学習する意欲が高まった
- 教師も含め周囲の人に理解されにくかった A 子の「見え」が理解されるようになった（例：A 子の見やすい環境設定は担当教師には暗過ぎて見えなかった）

②を通じて

- 「書く」ことへの不安と負担が減り、A 子にとってキーボードが「書くツール」から「書いたものを修正するツール」に変わった
- 教科・英語では練習した2分程度の「音読」を教師に送付し、授業中に指導を受け、改善することにより、リスニング・スピーキングへの興味関心が高まった

③を通じて

- 横臥時に読み書きを含む学習が可能となり、自宅での学習時間が増えた
- タッチ操作により体の負担が減り、学習量が増えた
タッチ・選択式問題を利用することで反復が容易となり・定着させる学習習慣が身についた

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- 学習の習慣化・・・環境改善により一定量の学習が習慣化したのではないか
- 学習の定量化・・・環境改善により学習時間確保が容易になったのではないか
- 入力量の増加・・・ブログ作成を通して、「入力または入力補助ツール」としてのキーボードへの興味、関心が高まったのではないか
- 活動量の季節性・・・季節（気温・湿度など）による活動量の増減があるのではないか



○気づきに関するエビデンス

（5～12月の自宅学習ブログ（blogger.com）と英文音読送付の回数と内容分析より）

● 【学習の習慣化】

グラフから見て、7月以降は安定した提出状況である。学習が習慣化したのではと感じている

● 【学習の定量化】

ブログの記述から、1日の平均の学習時間は合計50分程度。送迎の車中（片道30分程度）での過ごし方や通院時の待ち合わせ時間などを活用するようになったことが読み取れる

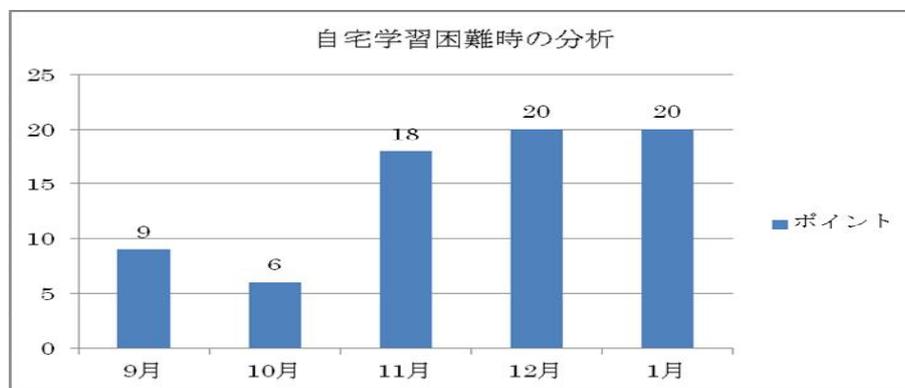
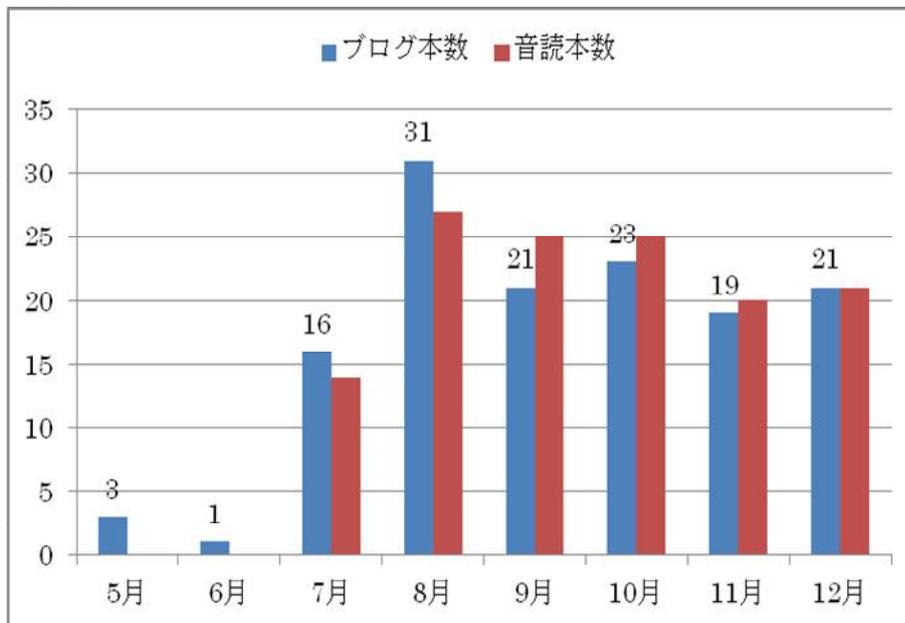
● 【入力量の増加】

5.6月は1回のブログ文字数は300字程度であったものが、8月以降は平均800字程度まで入力できるようになった

● 【活動量の季節性】

自宅で学習できない場合、メールでその旨を報告するよう取り決めていた。報告を1回につきiPadからの発信を1ポイント、iPodからの発信を2ポイント、母親からのメール連絡を3ポイントとした時、月別のポイントは11月以降倍増しており、iPodを使っても学習が難しい状態があるようである

※「個別のカリキュラムの必要性」の議論をするきっかけとなった



【その他のエピソード】

● 【スムーズな iPad 導入のために：iPad 導入期間の設定】

5月、6月は授業時に生徒と授業者と一緒に iPad の基本的使い方を練習したり、教科学習に適切な学習サイトやアプリ探しをしたりする「iPad 導入期間」とした

● 【保護者との協力】

導入期間中、保護者との面談を3回実施し、プロジェクトの趣旨説明や自宅での活動の様子についてうかがい、生徒にとって最善の活用法を一緒に考えることができた

● 【発展：器材の使い分け】

生徒が私物として iPad mini、iPod touch を購入し、パソコンと合わせた「体調や環境に応じて使い分け」ができるようになった

【使い分け例】

①iPad：体調の良い時、3G回線を利用して車での学校との往復時の学習に使用

②iPad mini：自宅で横臥時、学習の際の重さの負担を軽減するために使用

③iPod touch：体調が悪く、横臥時、タブレットの保持が難しい場合に使用

④iPod touch：外出時の調べや記録のツールとして使用

※パソコンは主に体調の良い時、教科「情報」で学習した、キーボードの使い方の練習用として使用した

● 9月以降、妹（中学校3年）の英語についての質問に対し、iPadのアプリやオンライン辞書を用いて根拠を示しながら教えたり、共に学んだりする機会が増え、自身の学びも深まり、姉妹間でのコミュニケーション量が増えた

● 12月には学んだ語彙について、音声を聞いてつづりをキーボードで打つことができるようになり、学習の幅が広がった。

● 1月には英語検定3級を受験し、惜しくも不合格であったが、継続的学習が可能となったリスニングは80%以上の正答率を示し、リスニングを「得意」と感じる事ができた。

● 「使い分け」や「ブログ作成」を通してキーボード入力に慣れ、教科「情報」にも積極的に参加、学習し、スキルアップし、「情報技術検定3級」に合格した

● 生徒・保護者は就労先としてパソコン用いた仕事を考え始め、初めて校外現場実習を経験し、パソコンスキルを活用して自分にできる仕事、就労形態の検討を保護者、本人、学校で行うようになった

